

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 4, No. 2 神奈川県立 生命の星・地球博物館 May, 1998



大草原の大きな湿地

—中国内蒙古自治区にて—

木場英久撮影（1997年8月6日）

木場英久（学芸員）

大草原を横切る川のほとりに湿原がありました。そこには、草原とはまったく違う種の植物が生えていました。まわりには、見渡す限り乾いた草原が地平線まで続いているので、同じような環境のところまで何百kmも離れているだろうに、どうやって、分布を広げたのだらうと思いました。

手前に見えるピンク色の花は、ハナイ（ハナイ科）*Butomus umbellatus* L.です。日本にはありませんが、ユーラシアに分布しています。花の構造などに単子葉植

物の原始的特徴を残した種です。

丸い葉で黄色い花をつけた植物はアサザ（リンドウ科）です。この他、タヌキモ（タヌキモ科）や、ホソバノシバナ（シバナ科）など、日本では絶滅危惧植物と呼ばれる種が花を咲かせていました。エゾミクリ（ミクリ科）、フサモ（アリノトウグサ科）など日本の湿地で見られる植物もありました。日本では、水辺はもっとも植物が絶滅の危機にさらされる環境の一つです。これらの種の住み場所が、失われつつあるのです。